

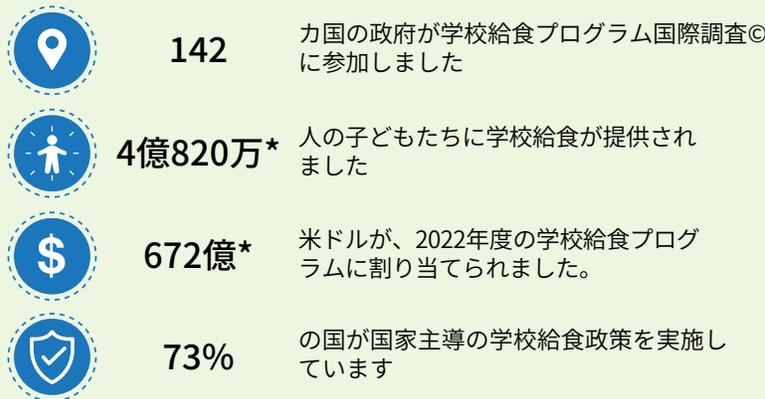
# 世界の学校給食プログラム

この文書は、2024年の学校給食プログラム国際調査<sup>◎</sup>の結果に基づいています

学校給食プログラム国際調査<sup>◎</sup>は、世界中の大規模な学校給食プログラムのすべての中核的な側面を包括的に記述することにより、国際規模の学校給食ネットワークの活動を強化することを目的としています。

世界児童栄養基金 (GCNF) は、すべての子供たちに栄養価の高い地元産の食事を提供する国家プログラムの構築を政府に支援することに尽力しています。

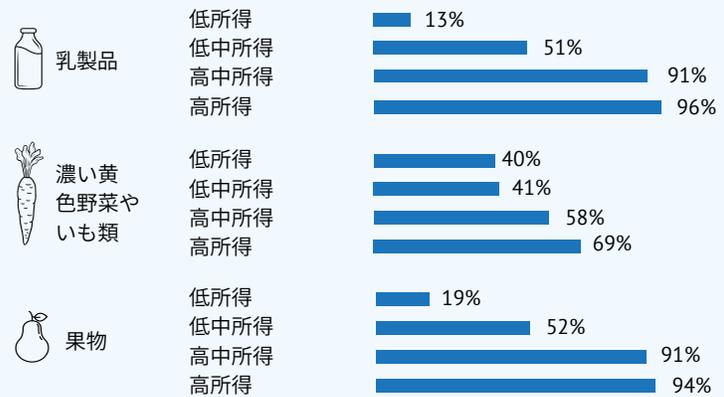
## 学校給食の概略



2022年度には、全就学年齢の子供の**25%**および小学校児童の**39%**に学校給食が提供されました。

## 食品のバリエーション

学校給食プログラムでは、**平均6.8種類の健康食品カテゴリー**の食品が提供されていました。提供された食品カテゴリーを国の所得レベルごとに分析すると、明確なパターンが浮かび上がります。



% = 各食品カテゴリーを扱うプログラムの割合

## 地産地消の学校給食指標

1. 地元産品の購入
2. 輸送距離の短縮
3. 小規模農家の利益の目標化
4. 小規模農家が学校やプログラムに販売
5. 小規模農家への支援
6. 小規模農家、事業者向け優遇契約
7. 学校給食プログラムに関係する小規模農家を支援する法律・政策

プログラムの**47%**が、4項目以上の地産地消の学校給食指標に該当しました。

学校給食における地元産食材の数は、食品のバリエーションと**正の相関関係**にあります。

## 環境と気候

学校給食プログラムでは、**持続可能性をますます重視する**ようになっています。

- 81%**のプログラムが**食品廃棄物削減**に取り組んでいました
- 67%**のプログラムが**パッケージ廃棄物削減**に取り組んでいました
- 79%**のプログラムは、生産地から消費地までの食品の**移動距離削減**に取り組んでいました

- **フィンランド**では、学校では環境、気候、持続可能性に関する教育を日常の活動に取り入れています。
- **バハマ**では、食品の包装に堆肥化可能な材料が使用されており、さらには廃棄を最小限に抑えるため、プラスチックやリサイクル不可能な包装など、特定の種類の包装を禁止しています。
- **ルワンダ**では、食べ残しをその場で堆肥化して食品廃棄物を削減しています。

\*169カ国のデータから算出。2024年の調査に参加しなかった国については推定値で算出。他の全情報は、参加した142カ国に基づいています。詳細は[www.gcnf.org](https://www.gcnf.org)からご確認ください。

引用文献: 世界児童栄養基金 (GCNF)。2024世界の学校給食プログラム。ウェブサイト: <https://gcnf.org/infographics-and-tools/>